

---

# 指令メール

蝦夷真次郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

指令メール

### 【Nコード】

N9307H

### 【作者名】

蝦夷真次郎

### 【あらすじ】

0時0分に原因不明の死亡事件が多発していた。そして奇しくも0時0分、大学生の時野克人のケータイに謎のメールが届く。このメールと死亡事件多発に何か関係があるのか・・・？

## 第1指令

俺の名前は時野克人<sup>ときのかつこ</sup>。大学2年生だ。

いつものように朝を迎え、いつものように歯を磨いて朝食を食べ、いつものように服を着替えて学校へ行く。ごくごく当たり前の日常だった。

ただ一つ、違ったことは

自分のケータイに謎のメールが受信されていたことだ。

何が謎なのかと言うとまず誰からのメールなのか全くわからないこと。

次に日付が変わった瞬間、つまり0時0分丁度に届いていること。

そして何よりも謎なのがそのメールの内容である。

その内容というのが

「あなたはこれから下す指令に従わなければいけない。もし従わなければそれはあなたの死を意味する。期限は1日。なお、無関係の人にこのメールのことを話した場合は例え指令を達成していたとしてもあなた、そして話を聞いた人両者に死が訪れる・・・」

指令：パンを買って食べる。

健闘を祈る。」

新手の迷惑メールだと思った。

指令に従わなければ死ぬだって？バカバカしい。

今時こんなのに真に受ける奴がいるかっての。小学生だって引つかからないぜ。

第一「パンを買って食べる」だって？指令って言うのかそれ？

と俺は完全に馬鹿にしていた。

ただ馬鹿にしつつもここ最近のニュースで夜の0時丁度に死亡事故が多発していることを耳にしていた、だから少し心の内に引っかか

るものを感じていたのは否めない。

まさかこのメールと何か関係あるのか？

まあいいや、今日は大学の購買で適当にパン選ぶか・・・

という具合に指令は達成した。後は誰かにこのメールの内容を言わなければいいわけだ。

って結局真に受けてんじゃん俺、馬鹿だな・・・第一どうやって俺がパン買って食べたことを確認するんだよ？

とは言いつつも元々用心深い性格の俺は多少なりとも警戒してしまふ。例えば子供のいたずらだとしても。

大学の講義が終わって帰宅の途に着く。家に帰ってから家族にメールのことを話すことはしなかった。

こうして何事も無く今日は終わった・・・と思いきやメール着信音が鳴り響く。

すぐにケータイを確認した。時刻は丁度0時を過ぎた頃だった・・・

やはり朝と同じメアドだった。内容を見てみると・・・

「指令達成おめでとう。早速だが本日の指令を下す。あなたはこれから下す指令に従わなければいけない。もし従わなければそれはあなたの死を意味する。期限は1日。なお、無関係の人にこのメールのことを話した場合は例え指令を達成していたとしてもあなた、そして話を聞いた人両者に死が訪れる・・・」

指令：タクシーに乗る。

健闘を祈る。」

気味悪いな・・・なんでパン食べたことわかってるんだ・・・？

てかなんか有難味の感じない文だな・・・素っ気ないと言うか。

それに前のメールにちよつと文を足しただけじゃねえか、ずいぶん機械的だな。

てかタクシーに乗るって・・・金もったいねえよ。

まあいいや・・・眠たいからまた明日考えよう・・・

そして俺は深い眠りについた。

そして次の日の朝、またニュースで0時0分に亡くなった人の話をやっていた。

寝起きの頭で認識するまでに時間がかかったが俺は徐々に不安を感じていた。

死んだ人にもメールが届いたのか？そして指令に従わないで本当に死んでしまったのか？

偶然で片付けるには0時0分に死んだ人が多すぎる・・・

いつもの日常が少しずつ狂い始めてきている、ほんの少しずつ・・・

- ・ 俺は今日初めて学校までの短い距離をタクシーで行くことにした・・・

続く

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9307h/>

---

指令メール

2010年12月3日06時17分発行